

目的 従来離乳食の研究は栄養学的観点から検討されたものが多く、乳児のし好性、特に、食感の観点から明らかにされた研究はほとんどない。乳児が乳類から半固形食に移行する際、最も敏感に反応を示すのは、舌ざわりによるし好であると言う。また、離乳期の食し好は、成人になっても大きく影響するとも言われている。本研究は、乳児に与える食べ物の一貫として、まず市販離乳食品の物性を調べし好性を明らかにすることを目的とした。

方法 食品の物性：ウペローテ粘度計、テクスチャロメーター、レオメーターで測定した。

好性：官能検査およびアンケート調査を行った。

結果 市販離乳食品のかゆ類の物性と表示の月令との間に相関が認められた。市販品に対する乳児のし好性は、軟かいもの、硬くても食べた経験のあるものが高かった。市販品の利用者は約 80 %で、調理の手間の省けることを主な理由としている。